
■第4回かすみがうら市まち・ひと・しごと創生有識者会議記録

日時：令和2年2月5日 午前11時から

場所：千代田庁舎2階 第1会議室

【出席委員】

西山 正 委員 川村 成二 委員 菊池 克幸 委員 櫻井 理恵 委員
兵藤 昭彦 委員 古橋 智樹 委員 木村 真希 委員（渡辺委員代理）

【欠席委員】

川島 宏一 委員 大塚 洋一郎 委員 狩野 良和 委員 小泉 敏明 委員
真藤 実男 委員

【事務局等】

辻 和徳 （市長公室長）
稲生 政次（地域未来投資推進課 課長）
猪俣 直宏（地域未来投資推進課 課長補佐）
稲垣 陽介（地域未来投資推進課 主任）
菅谷 知央（地域未来投資推進課 主事）

【議題】

1. 開会
 2. あいさつ
 3. 議事
(1) 第2期かすみがうら市人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略について
(2) 地域再生計画による実施予定事業について
(3) 意見討論（自由討論）
 4. その他
 5. 閉会
-

1. 開 会

（※）開会に先立ち事務局より連絡：本日川島座長が急遽欠席となり、座長代理として西山委員を指名する旨川島座長より依頼を受けた。設置要綱第5条4項（座長に事故があるときは、あらかじめ座長の指名する委員がその職務を代理する）に基づき、西山委員を座長代理として進行していただくことを事前に報告。

2. 挨 拶

西山座長代理：ご指名ですので、座長代理を務めさせていただきます。よろしくお願いします。

3. 議 事

(1) 第2期かすみがうら市人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略について
～資料説明～

○座長代理：ありがとうございます。ただいまの事務局からの説明について、質問はございますでしょうか。

→事務局：補足して説明させていただきます。川島委員からご指摘のあった点についてご紹介させていただきます。個別施策全般のKPIが、アウトプット感の傾向が強いのではないかとご指摘をいただき、個別施策ごとのKPIを修正することが、時期的に難しかったため、18ページのとおり4つの基本目標ごとにKPIを設定いたしました。アウトカム要素のある総合的なKPIとして設定させていただきご了承いただいているところでございます。更に46、47ページの、戦略の推進体制や進捗管理の部分についても、推進体制の表現が若干抽象的ではないかとご指摘があり、特に庁内体制の充実の部分について、組織を横断的に進めていくということを強調した文章に修正したところです。47ページ、3の進捗管理についても具体的な表現に修正をして、了承をいただいているところです。

○兵藤委員：Society5.0の推進は、例えばどんなものが想定されるのでしょうか。

→事務局：多様な働き方の実現という表現をさせていただいておりますが、例えば、複合拠点施設のよなものを整備する場合などに、コワーキングスペースのようなネット環境が整備されている、情報技術が充実したような場所の提供ができるのではないかと。次世代な技術を活用しながら、そういうスペースを確保する。あるいは、基本目標4にあるように自動運転技術というところで、実証実験、モデル運行1回というKPIを設定しておりますが、そういった新しい技術を取り入れた事業のイメージを持っております。

○川村委員：数字の確認をしたいが、7ページの基本目標1の新規雇用者数の見込みが、棒グラフでは41名で、左の雇用者予定数が48名になっていますが、どのように見ればよいのか。

→事務局：申し訳ありません、48人の誤りです。棒グラフの方も48です。比率についても136.6から若干上がる形になります。修正させていただきます。大変失礼しました。

○川村委員：第2期人口ビジョンについて。人口ビジョンを減らすという認識はなかったのですが、13,14ページで見て、正直何が変わっているのか分からない。数値目標自体は全く同じですよ。ただ右のページでいう新たな視点というのが入っただけ。これが第2期人口ビジョンと言えるのかというのが、正直感じたところ。第1期人口ビジョンの数値目標を踏襲します、とは書いてあるが、こういう問題があるけれど目標は高く、厳しい状況ではあるけれども目標設定は継続したいと、そういう表現で整理しないと第2期人口ビジョンの意味合いが伝わってこない。その辺はなにか取りまとめ方で工夫が必要だと思いますが、何か考え方があれば伺いたい。

→事務局：第2期人口ビジョンの最初の文章のところで、今ご指摘のあった、人口の自然減については、今後大幅に見込まれるが、新たな視点により人口移動の均衡を保つという表現。あまり変革されたような表現ではないので難しいですね。

○座長代理：新たな視点として、移住定住策の強化という視点も謳っているわけで、川村委員ご指摘の通り、数字自体は変わらないわけですが、自然減の傾向が続くことを考えて、社会増をしっかりと手当していかなければならない。そこを、移住定住施策を強化することによって、社会増をより増やしていく。自然減は続くものの、人口の将来の見通しについては、当初のとおり維持していきたいというふうに、新しい視点と施策を組み合わせ、この数値を維持するというところを

入れた方がいいかもしれない。新たな視点を 14 ページに入れたものの、これがどう人口ビジョンに影響するのか、十分に書き下されていないような感じがします。明日からの全員協議会を控えているということですが、少し考えていただければと思います。

○川村委員：グラフの取り方ですが、13 ページの人口ビジョンの人口見通しが、社人研推計と施策誘導系のみ記載していますよね。単純な見方だが、下の表が上のグラフとマッチしないので、上下を入れ替えて欲しい。見にくいんですよ。社人研の目標よりも現状どうなのかというのが 5 ページの実績ですよ。できれば、青いラインとこちらのグラフの色を同じにさせていただいて、赤の実績をここに入れる事によって、目標設定が、ほぼ先ほど 99.1%と言いましたけど、近い水準でいっていると、だから下げる必要も上げる必要もないことが、ここに 3 本のラインが入ればわかりやすいと思う。ちょっと見にくいですかね。要はこのグラフ一つで人口ビジョンの推移がわかるものになると思う。

→事務局：実績を入れると、2010 年と 15 年しか入っては来ないのですが。

○川村委員：見にくいですよ。それをここに別な形で小さくでもいいですから、載せることによって、人口ビジョンの正当性をうたった方が、人口ビジョンのところを見た時に分かりやすいと思う。せっかく 14 ページ空いていますので、検討していただければと思います。

○座長代理：5 ページ目に 2010 年から 20 年までの施策誘導の実績が書いてありますが、施策誘導が始まったのは、2015 年からなんですよ。その前というのは、本当はなくてもいいという気がします。

→事務局：5 年前に作った際に、2015 年の国勢調査もまだ終わっていない時だったので、前回の人口ビジョンは 2010 年からのグラフになっていました。それに倣ってしまったので、確におっしゃる通り 2010 年から 15 年は戦略始まっていない。消してもいいかという話は課内でも出ましたが、グラフを第 1 期に合わせた形にした。11 年、12 年、13 年の数字は、グラフに合わせただけなので、確かに消してもいいかと思います。

○座長代理：13 ページについても、2010 年の施策誘導推計のところもなくともよいかと。

→事務局：ここはなくてもいいと思います。

川村委員がおっしゃられたのは、14 ページの 2015 年から 20 年の 3 本の拡大版があった方がいいということでしょうか。実績として 3 本が見えるグラフということで。

○川村委員：そうですね。

○座長代理：他にご意見はございますか。では、総合戦略ということで、ご意見をいただきましたが、原則的にはこの方針のとおり調整することに、ご了解いただけますでしょうか。

○兵藤委員：その前に一点だけ。42 ページのケース 3、内容が矛盾しているようなので再考の方がいい。市内の勤務地を選びました。不便なので神立駅周辺にアパートを借りました。ちょっと言っている意味が分からない。この理論でいうと別にかすみがうら市に住まなくてもいい。アパートは土浦でいいという形になってしまうので。市内に勤めているのに、電車が不便なので、神立駅の近くに住みましたというのは、どういう意味なのか。通勤に電車を使うわけではないですよ。自宅から通えるので、経済的助かっていますと言いながら、アパートを借りる。矛盾していると思うので、このケースは再考された方がいいかもしれません。

→事務局：若い方なので、土日東京に遊びに行くとか、そういうイメージだと神立の駅前に。若い方も一人暮らししたいと思われる方がいるのも現実なので。

○兵藤委員：であれば、選択肢としてそういう選び方もあるという表現だったらいと思いますが、こ

ここまで具体的に書いてあると矛盾してしまう。

→事務局：表現を修正します。

○座長代理：ご意見ありがとうございます。他はよろしいでしょうか。それでは改めて本書のとおり進めるということでご異議ございませんでしょうか。

→意義なしの声

続いて、次の議題になりますが、地域再生計画による実施予定事業について、事務局の方から説明をお願いします。

（２）地域再生計画による実施予定事業について

～資料説明～

○座長代理：ありがとうございます。ただいまの説明につきまして、ご意見ございますでしょうか。

○川村委員：古民家の活用について、名称等は決まったのでしょうか。いまだに古民家という言い方をしているので、もうそろそろ適切な名前があってもいいような気がしていたので、その辺は何か、情報はありますか。

→事務局：３月議会で条例を改正する予定があり、その中で名前が出るのですが、そこはもともと、菅沢さんというお宅の家だったので、旧菅沢邸という名前をつくろうかと思いましたが、歩崎の地域、かなり菅沢という性が多い地域なので、菅沢家の屋号をつかい、古民家江口屋ということで進めていこうと考えております。

○座長代理：他にございますでしょうか。では、実施予定事業について、本書のとおり進めていくということで、異議はございませんか。

→異議なしの声

では、その他の案件に移らせていただきます。事務局から何かございますでしょうか。

（３）その他

○事務局：本日の本会議を持って、第２期総合戦略の策定に関する審議については終了となります。本資料については、明日の市議会全員協議会において報告させていただいたのち、本年度中にホームページ等で広く周知をさせていただく予定となっております。令和２年度から、本戦略はスタートになりますが、進行管理につきましては、引き続き皆さま方へ報告させていただいて、ご意見等々、引き続き頂く機会を設けていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。次回は、６月から８月頃の開催を予定しております。間があいてしまいますが、ご連絡させていただきますので、よろしくお願いいたします。

○座長代理：若干、誤字や表現で「てにをは」ですが気になるところがありますので、もし反映していただけるようでしたらお願いしたいと思います。

○菊池委員：用語のところですが、カップルの成婚率についての個所があったが、カップルを輩出したという表現があるが、輩出というのは優秀な人材を輩出という時に使う言葉なので、簡単にカップルが生まれた、カップルができたなどに修正してほしい。人口ビジョンに関しては、新しい視点ということで、移住定住に加えて外国人という視点が加わったということなので、当然外国人は増加しているでしょうから、おそらく子どもさんが生まれたケースなども出ているでしょうし、あと数年すれば、就学して小学校中学校に増えてくると思う。そういった時に、日本語の問題は

大きな問題になってくると思うし、テレビでもやっていましたが、日本語ができないから、外国人の子どもがひきこもる、というケースが報告されていました。そういったことを踏まえ、語学ボランティアとか、K P I にも入っていますが、N P O なり市民活動団体などが共生していくための基盤をつくる人材を育てていくのが行政の努めだと思うので、そこを期待しております。一点参考までに申し上げますと、常総市で、水害がきっかけで住めなくなった病院の空き家を拠点にして、縁側ハウスということでジュントスというN P O 法人が外国人と共生する交流拠点をつくった。外国人の子どもさんの学童保育や、学校に入学する前に語学の勉強、台風などの災害を恐れる外国人の避難場所として活用されたこともあった。ですから、新しい視点で盛り込むということであれば、必ずしも行政が育てるということではありませんが、N P O 等と一緒にやっていただきたいという要望です。

○兵藤委員：今の意見の延長になるかもしれませんが、資料の中に外国人の増加や国別のデータがあったようですが、永住外国人と実習生等を分けて統計をとられているのか、それとも一緒になっているのか。

→事務局：一緒になっています。

○兵藤委員：内容は把握しているのでしょうか。

→事務局：把握はできていません。

○兵藤委員：今の実習生制度だと、基本的に期限付き。期限付きの方と永住される方は、結婚や教育の観点など市の対応が異なるのではないかと思います。それをこの資料の中に生かすかは別にして、把握だけはしておいた方が、何かの時にデータとして、有効になるのではないのでしょうか。また別件ですが、後半の方にやまゆり館の利用者のアンケートがあるが、やまゆり館利用者がどの地区の方なのかというデータは取られているのでしょうか。

→事務局：ヒアリングした時は、どこからいらしたかは聞いてはいます。

○兵藤委員：実際には、通常の利用者の地域別のデータはとっていない？

→事務局：そうですね、3組に分かれて1組10人くらいずつはやりましたが。

○兵藤委員：私は利用したことはないが、利用する時はなにか記入する物があるのでしょうか。

→事務局：そうですね、やまゆり館事務局はデータを保有しています。利用者が市外なのか市内なのか。料金設定も変わってくるので。

○兵藤委員：この事業の中で集落を存続させようという部分もあれば、アンケートなどをとると、便利などところに住みたいという意見が多くなっています。特に神立駅近辺という文言が出てきたり、やまゆり館があって助かるという意見があったりする。ということは、やまゆり館から遠いエリアの方はどういう形になるのか。稲吉地区ではない地域をどうするのか。また、稲吉地区に集約をせざるを得ないのか。そういった市としての苦渋の決断をしなくてはならない時期が遠からず来るのではないのかなと。その時にそういったデータをきちんと精査しておかないと判断ができなくなってくるのかなという気がします。戦略の中でという話ではないですが、市としても、迷走しているのかなという気がしましたので、提言させていただきます。

○座長代理：ありがとうございます。他にご意見ございますでしょうか。では最後に一言だけ、私の方から皆様お願いがございします。この戦略については、これで終わりになるのですが、戦略というのは、実行してなんぼというのがございします。実行の担い手になりうるのが、今日お集りの有識者会議の皆様方かなと思っておりますので、ぜひ、皆様のご協力を以って、この計画が絵に描いた餅にならないように、市役所と協力して進めていただければと思いますので、引き続

きよろしく申し上げます。

それでは以上を持ちまして第4回かすみがうら市まち・ひと・しごと創生有識者会議を閉会したいと思います。本日は大変お疲れ様でした。

終了